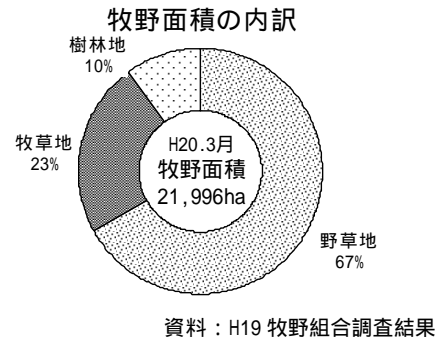


2. 阿蘇の草原は今 - 各種統計調査による阿蘇の草原の現状

肉用牛の飼養頭数は昭和40年代から減少し、近年の子牛価格の低迷が有畜農家や放牧頭数の減少に拍車をかけるなか、草原維持・管理の担い手は、従事者の減少に加え、高齢化、後継者不足という課題を抱え、一段と厳しい状況です。一方、野焼き・輪地切り支援ボランティアを受け入れる牧野組合が増え、都市との交流が拡大しています。また、草の活用も進みつつあり、農業生産者へのアンケートでは75%が、野草たい肥などで、現状程度または現状以上に野草を利用したいと回答しています。

牧野面積、野草地面積の推移

- ・ 野草地は牧野総面積の67%。
- ・ 平成10年から10年間に牧野面積は439ha減少。
- ・ 野草地、牧草地合わせて草地は746ha減少。

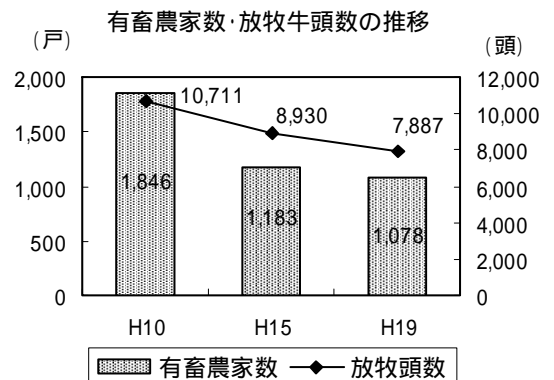


牧野面積の推移（資料：牧野組合調査結果）

	H10年 (ha)	H19年 (ha)	H10-H20増減	
			面積(ha)	割合
牧野総面積	22,435	21,996	-439	-2.0%
野草地	15,117	14,687	-430	-2.8%
牧草地	5,365	5,049	-316	-5.9%
樹林地	1,953	2,260	307	15.7%

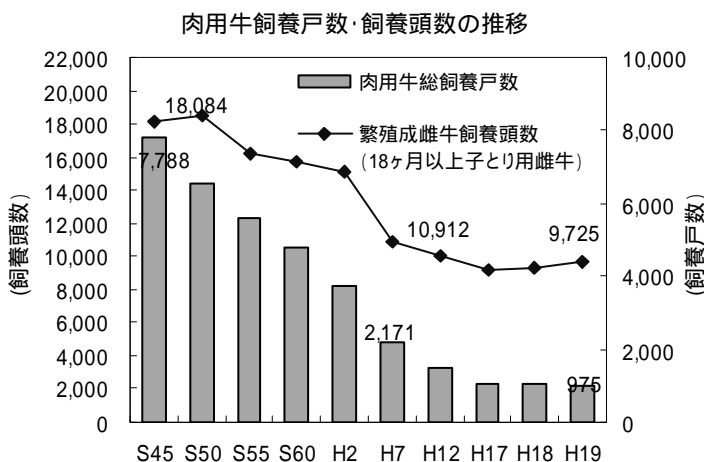
維持・管理の担い手の状況

- ・ 入会権者戸数、農家戸数、有畜農家数ともに減少しており、有畜農家数は過去9年間に768戸(41%)減少。
- ・ 後継者がいる有畜農家は233戸で全体の22%にすぎない。
- ・ 放牧頭数は10年間に26%減少。



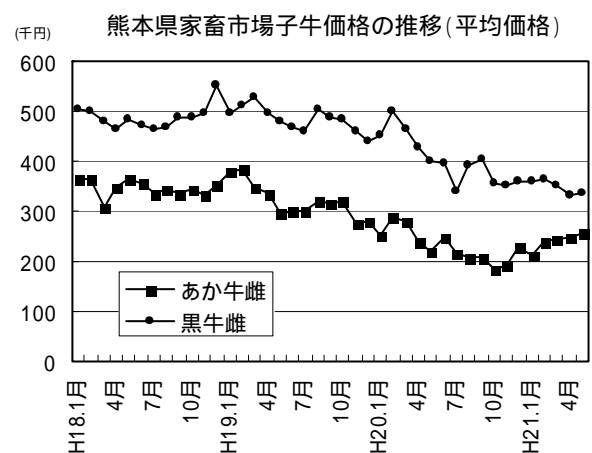
肉牛の飼養状況と市況

- ・ 肉用牛飼養戸数・飼養頭数(繁殖成雌牛)は昭和40年代から減少。
- ・ 子牛の取引価格は低迷しており、褐毛種はここ3年の間に約10万円以上下落。



平成17年度以前は旧蘇陽町を含む
飼養頭数：褐毛和種、黒毛和種の他に混合種等を含む
飼養戸数：肉用牛総飼養戸数を使用

資料：熊本県畜産統計調査



野焼き・輪地切りの状況

- 野焼き・輪地切りの延べ出役者数は過去9年間に7～8%（500人前後）減少。
- 出役者平均年齢は9年間で5歳上昇し、高齢化が進んでいる。
- 野焼き面積は増減しながらも維持されているが、出役者一人当たりの負担は増えている。

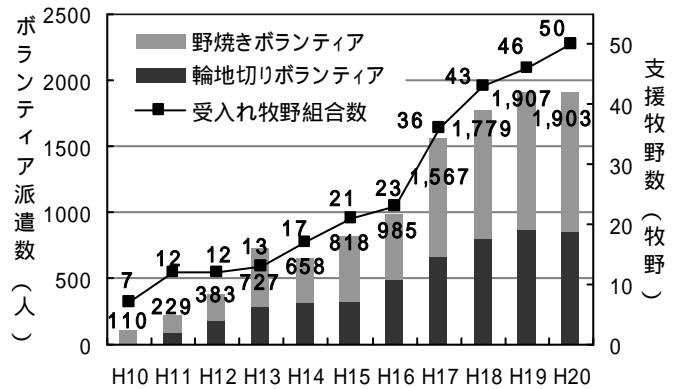
野焼き輪地切り出役者数（資料：牧野組合調査結果）

		H10	H15	H19
輪地切り	延べ出役者数(人)	5,609	5,409	5,124
	出役者平均年齢(歳)	52.7	55.5	57.7
野焼き	延べ出役者数(人)	7,673	7,426	7,140
	面積(ha)	16,064	16,264	16,097
	一人当たり面積(ha)	2.09	2.19	2.25

支援ボランティアの活動状況

- 野焼き・輪地切り支援ボランティアの受入れ牧野は年々増加し、平成19年度には全体の27%にあたる46組合が受け入れ、年間で延べ1,900人が参加。

輪地切り・野焼きボランティア派遣数・支援牧野数の推移



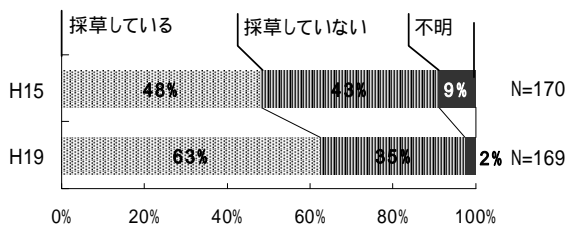
ボランティア派遣数：延べ人数、グラフ内の数字は野焼き・輪地切り派遣数の合計

資料：(財)阿蘇グリーンストック

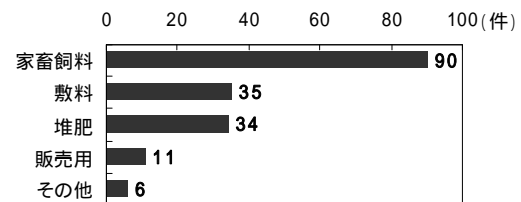
草の活用について

- 全体の63%にあたる106組合が採草（野草・牧草を含む）を行っており、平成15年度調査時の48%と比べ、増えている。これには、阿蘇市によるバイオマスエネルギー実験事業としての採草も貢献していると思われる。採草した野草の利用については、90組合が家畜飼料として自家利用、11組合が販売している。

採草の実施状況



野草の利用方法

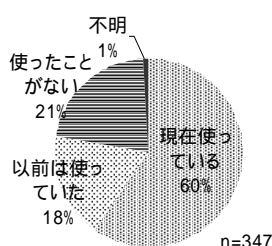


資料：H19 牧野組合調査結果

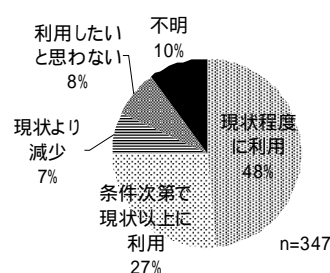
農産品生産における野草利用について

- 阿蘇地域の農産品生産者の約6割がたい肥その他で現在も野草を使用。
- 75%が今後も現状程度もしくは現状以上に野草を使用したいと考えており、その理由は「化学肥料や農薬を減らせる」「入手しやすい」「土地条件に合い、理に合っている」など。

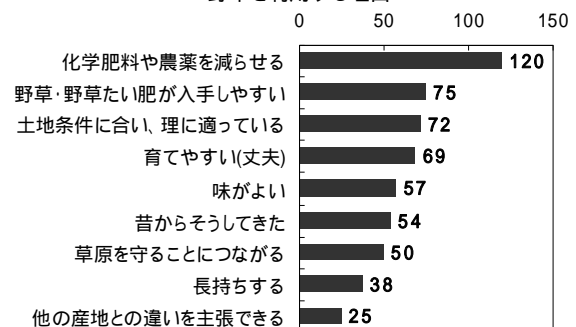
野草利用の有無(たい肥等)



今後の野草の利用



野草を利用する理由



資料：阿蘇草原再生シールの会によるアンケート調査結果

3 . 阿蘇草原再生協議会の活動

(1)組織

阿蘇草原再生協議会とは

- ・ 「阿蘇草原再生」は、阿蘇郡市内の草原地域において、多様な主体の参加により保全や維持管理を含む自然再生の幅広い取り組みを進め、かつての多様性のある草原環境を取り戻そうとするものです。
- ・ 阿蘇草原再生協議会は、地元牧野組合や区、NPO/NGO、専門家、地元住民、地方公共団体、関係行政機関など、草原再生に向けた取り組みに関わるさまざまな主体が自主的に参加して設立しました。
- ・ 共通認識となる「阿蘇草原再生全体構想」のもと、多くの団体や個人が連携することにより、さらに活動を展開していこうとしています。

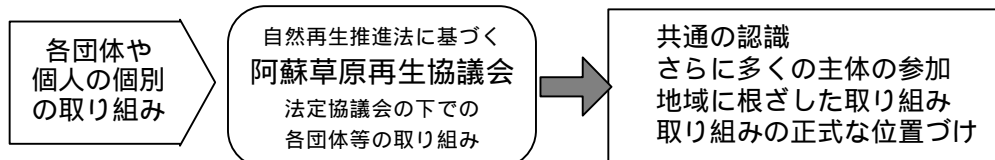
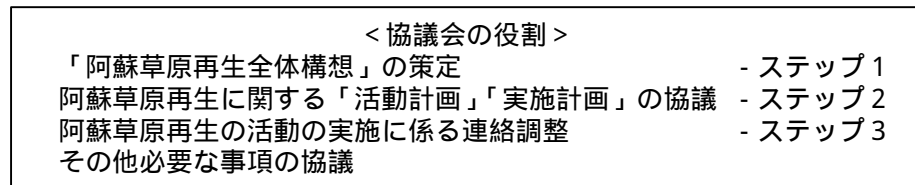
協議会の性格

活動を進める構成員、一人ひとりが主役

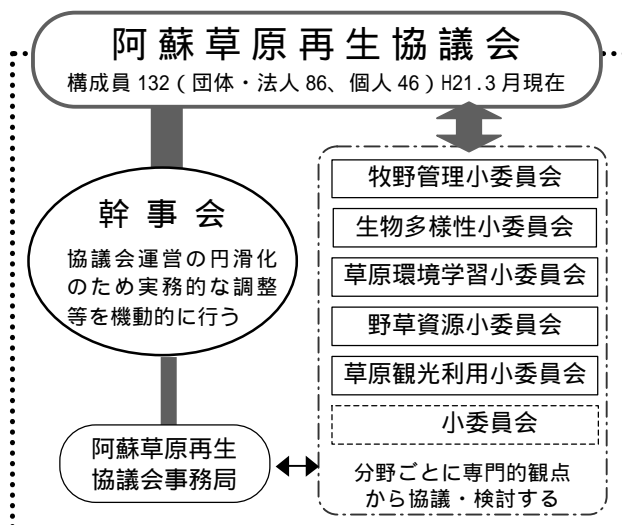
協議会は、阿蘇の草原を保全・再生・維持管理していくことにつながる活動に継続的に参加していく個人、団体又は法人により構成されています。

協議会は、構成員それぞれの事業や活動を推進するために協議・連絡調整する場

協議会は、何かを調べたり研究したりする場ではなく、実際に活動する人たちが自ら作る「活動計画」や情報を持ち寄って、協議したり、連絡調整する場です。



協議会の組織



阿蘇草原再生協議会は、130 以上もの団体・個人が参加する大きな会議です。

協議会のもとに設置された幹事会や、テーマ別の協議を行う小委員会が、それぞれの機能を果たし、相互に連絡・調整を図りながら、効果的・効率的な運営を図っていきます。

(2)阿蘇草原再生全体構想

全体構想は、協議会構成員それぞれが、阿蘇草原再生に向けて取り組んでいこうとしている事業や活動の内容を示したものです。

本レポートを作成するにあたっては、それぞれの活動結果報告について、担当する小委員会において、全体構想に示す「取り組みの考え方」や「取り組みの内容」との整合や草原再生への貢献などについて協議し、今後の活動の展開に向けて評価・助言を行いました。これにより、全体構想の目標に向けて、個々の活動が継続的、かつ効果的に進められることを目指しています。

< 阿蘇草原再生に向けた目標と取り組みの内容 >



< 取り組みの進め方 >

(1)阿蘇ならではの草原再生を進めるために 地域に培われてきた知恵と技術に学ぶ 経済的基盤の確立など継続的な活動の推進 地域ごとの特性に合わせた取り組み	(2)自然再生に共通の考え方を踏まえて 様々な主体との連携・協働 科学的知見の活用や実証的な手法による進め方 情報の公開、発信と共有
---	---

(3) 「活動計画」、「活動結果報告」のしくみ

阿蘇草原再生に向けた「活動計画」とは

阿蘇草原再生協議会では H19 年 3 月に策定した「阿蘇草原再生全体構想」を踏まえ、協議会構成員それぞれが、阿蘇草原再生に向けた取り組み（事業・活動）の内容を明らかにした「活動計画案」を作成し、協議会の場で協議しながら事業・活動を進めることにより、阿蘇の草原再生を実現していこうとしています。

「活動計画」の案は、協議会及び小委員会の協議を経て確定し、活動の実施者は協議会の承認のもとで活動を実施します。活動実施後に活動結果や成果について協議会に報告します。

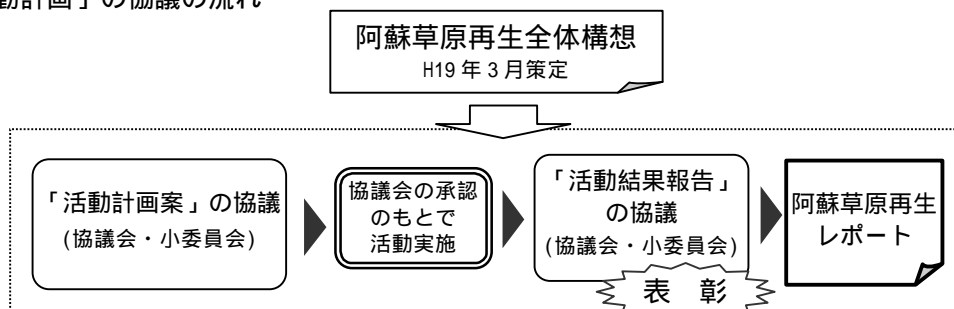
活動結果の報告

活動の実施者は、活動実施後に実施内容や成果について「活動結果報告」として協議会に提出します。各小委員会では、分担するテーマに関する報告を対象として、今後の活動の展開に向けて評価・助言を行います。

活動結果に対する表彰

協議会の承認を受けて実施した活動が一定の成果をあげたとき、その活動の実施者を讃え、協議会が表彰します。また、各小委員会では、テーマ別に分担した活動について評価・助言を行うとともに、奨励賞を選定します。これにより、阿蘇草原再生に向けた活動を地域内外に広くアピールするとともに、他の活動のモデルとしていきます。

「活動計画」の協議の流れ



阿蘇草原再生における「活動計画」の特徴

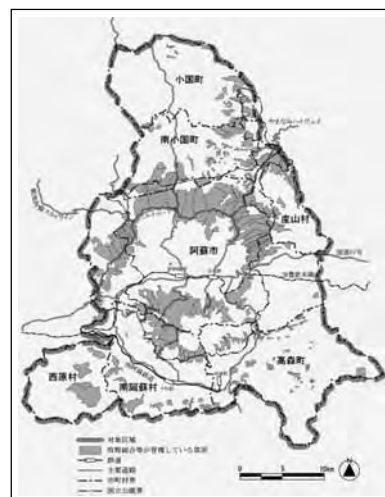
阿蘇草原再生の取り組みは、採草・放牧・野焼きなどの維持管理活動を継続していくことが中心であり、行政が行う事業に限らず、地元牧野組合や区が中心となって行う取り組みや、NPO/NGO による活動など多種多様であり、ソフトの事業が多いのが特徴です。

阿蘇草原再生に向けた活動を持続的に進めていくためには、多様な主体による様々な事業・活動が「活動計画」として示され、協議会や小委員会で協議することにより、草原再生が効率的・効果的に進められていくことに意味があります。そのため、法による実施計画作成の規定を踏まえつつも、阿蘇の実状に照らして、阿蘇草原再生協議会として「活動計画案」の提出・協議、「活動結果の報告」の仕組みをつくりました。

阿蘇草原再生の対象

阿蘇の草原は、ススキやネザサを主体とする二次草原である「野草地」と、土地を改良し牧草を育てている「人工草地」に分けられます。千年の間、人々に豊かな恵みをもたらしてきた、阿蘇本来の豊かな草原の生態系が存在しているのは野草地です。このため、阿蘇草原再生では、「野草地」の保全・再生・維持管理を目指していきます。

人工草地は、阿蘇草原再生の直接の対象にはしませんが、野草地と人工草地のバランスに配慮しつつ適切に管理することが、阿蘇の農畜産業を活性化させ、野草地の生態系の質を改善向上させることにもなるので、連携して進めます。



対象区域の範囲

阿蘇草原再生の活動の対象とする区域（「阿蘇草原地域」）は、熊本県阿蘇市及び阿蘇郡（南小国町、小国町、産山村、高森町、西原村及び南阿蘇村）内の草原及びその周辺とし、過去に草原であった場所も含むものとします。

(4)活動年表

H15	1月 4月		「自然再生推進法」の施行 「自然再生基本方針」を閣議決定	
H17	8月	31日	第1回「阿蘇草原再生協議会（仮称）設立準備会」	
	9月		「阿蘇草原再生協議会だより - 準備号」発行 阿蘇草原再生協議会構成員の公募（9・10月）	
	11月	9日	第2回「阿蘇草原再生協議会（仮称）設立準備会」	
	12月	2日	第1回「阿蘇草原再生協議会」 ・阿蘇草原再生協議会の設立、4つの小委員会の設置承認 ・阿蘇草原再生協議会事務局を、九州地方環境事務所内に設置 「阿蘇草原再生協議会だより - 第1号」発行	構成員：103 団体・個人 出席者：98 名 （37 団体・法人、21 個人）
H18	3月		「阿蘇草原再生協議会だより - 第2号」発行	
		22日	第2回「阿蘇草原再生協議会」 ・宇根豊氏話題提供「生きものは、なぜあなたのまなざしを待っているのか」 ・全体構想策定作業部会の設置承認 ・「全体構想骨子案」についてグループ討議 パンフレット「阿蘇の草原を未来へ」発行 「阿蘇草原再生協議会だより - 第3号」発行	構成員：121 団体・個人 出席者：78 名 （40 団体・法人、16 個人）
	12月	14日	第3回「阿蘇草原再生協議会」 ・阿蘇草原再生協議会の活動趣旨、内容について説明 ・阿蘇草原再生全体構想素案についてグループ討議	構成員：124 団体・個人 出席者：82 名 （47 団体・法人、19 個人）
H19	1月		「阿蘇草原再生協議会だより - 第4号」発行	
	3月	7日	第4回阿蘇草原再生協議会 ・中村太士氏より話題提供：「自然再生全体構想策定後の協議会 釧路の事例を中心に」 ・「阿蘇草原再生全体構想」策定 「阿蘇草原再生協議会だより - 第5号」発行 冊子「阿蘇草原再生全体構想 阿蘇の草原を未来へ」発行	構成員：124 団体・個人 出席者：84 名 （38 団体・法人、24 個人）
	12月	11日	第5回阿蘇草原再生協議会 ・阿蘇草原再生に向けた事業・活動報告 ・「実施計画再生の手引き」（案）承認 「阿蘇草原再生協議会だより - 第6号」発行 「実施（活動）計画再生の手引き」作成	構成員：128 団体・個人 出席者：97 名 （47 団体・法人、22 個人）
H20	1月	29日	行政連絡会議	
H20	3月	13日	第6回阿蘇草原再生協議会 ・幹事会の設置承認、幹事として16団体・個人を選任 ・行政連絡窓口創設の報告 ・一般公募によるロゴマーク作成を承認 ・表彰制度の検討について承認 「阿蘇草原再生協議会だより - 第7号」発行 パンフレット「阿蘇の草原を未来へ - 阿蘇草原再生全体構想概要版」発行 「阿蘇草原再生協議会 構成員のプロフィール」	構成員：128 団体・個人 出席者：72 名 （39 団体・法人、12 個人）
	9月	11日	第7回阿蘇草原再生協議会開催 ・阿蘇草原再生に向けた「実施計画案」の協議 ・ロゴマーク募集開始・活用 ・表彰制度の検討 ・阿蘇草原再生白書作成の承認 阿蘇草原再生ロゴマーク募集開始	構成員：131 団体・個人 出席者：73 名 （40 団体・法人、21 個人）
	10月		「阿蘇草原再生協議会だより - 第8号」発行	
H21	3月	4日	第8回阿蘇草原再生協議会開催 ・野草地保全・再生事業実施計画案の協議 ・H21年度阿蘇草原再生に向けた「活動計画案」の協議 ・阿蘇草原再生ロゴマークの決定 ・活動計画の表彰制度の承認 ・草原観光利用小委員会の設置承認 ・阿蘇草原再生募金設立の承認 「阿蘇草原再生協議会だより - 第9号」発行	構成員登録：132 団体・個人 出席者：70 名 （88 団体・法人、12 個人）

参考：協議会構成員名簿

団体・法人

(平成21年3月現在)

分類	団体・法人名	分類	団体・法人	分類	団体・法人名
区・牧野 組合等	跡ヶ瀬牧野組合	区・牧野 組合等	波居原牧野組合	行政	熊本県阿蘇地域振興局農業振興課
	農事組合法人狩尾牧場		西原牧野組合		熊本県阿蘇地域振興局農業普及・指導課
	狩尾牧野組合		池ノ窪牧野組合		熊本県阿蘇地域振興局林務課
	木落原野組合		長野牧野農業協同組合		阿蘇市
	黒川地区区長会乙姫区		中松二区		小国町
	黒川地区区長会上西黒川区		村山牧野組合		南小国町
	黒川地区区長会上役犬原区		小森原野組合		産山村
	黒川地区区長会北黒川区		柳谷牧野組合		南阿蘇村
	黒川地区区長会蔵原区		NPO 法人ASO田園空間博物館		高森町
	黒川地区区長会黒川千丁区		NPO 法人阿蘇エコファーマーズセンター		西原村
	黒川地区区長会下西黒川区	地元 NPO/NGO 等	NPO 法人阿蘇花野協会	関係機関	財団法人阿蘇市地域振興公社阿蘇テレワ ークセンター
	黒川地区区長会下役犬原区		NPO 法人阿蘇ミュージアム		阿蘇森林組合
	黒川地区区長会竹原区		NPO 法人九州バイオマスフォーラム		阿蘇地域牧野活性化センター
	黒川地区区長会西町区		阿蘇自然案内人協会		阿蘇農業協同組合
	黒川地区区長会東黒川区		阿蘇草原再生シール生産者の会		阿蘇市観光協会
	黒川地区区長会坊中区		阿蘇地区パークボランティアの会		熊本県阿蘇家畜保健衛生所
	黒川地区区長会道尻区		阿蘇の自然を愛護する会		熊本県畜産農業協同組合阿蘇支所
	黒川地区区長会南黒川区		阿蘇フォーラム		熊本県農業研究センター草地畜産研究所
	黒川地区区長会元黒川区		なみの高原やすらぎ交流館		社団法人熊本県畜産協会
	古城財産区管理会		財団法人阿蘇火山博物館久木文化財団		独立行政法人国立青少年教育振興機構
小堀牧野組合	財団法人阿蘇グリーンストック	国立阿蘇青少年交流の家			
坂梨財産区管理会	財団法人阿蘇地域振興デザインセンター	南阿蘇畜産農業協同組合			
三閑牧野組合	財団法人休暇村協会休暇村南阿蘇	その他 団体	株式会社九州自然環境研究所		
新宮牧野組合	財団法人自然公園財団阿蘇支部		有限会社ひとちいき計画ネットワーク		
農事組合法人湯浦牧場	うぶやまさわやかビーフ生産組合		有限会社野外教育研究所IOE		
馬場・豆乳肉用牛生産組合	環境省九州地方環境事務所		NPO 法人地域自然情報ネットワーク		
日の尾牧野組合	農林水産省九州農政局	株式会社メッツ研究所			
二塚牧野組合	熊本県環境生活部自然保護課				
町古閑牧野組合	熊本県教育庁文化課				
下の道採草組合	熊本県商工観光労働部観光物産総室				

個人

分類	氏名	所属団体	分類	氏名	所属団体
地元農林 畜産業	阿南 善範	阿蘇インタープリターの会、阿蘇北外輪山トレッキング協会	学識・ 研究者	岡本 智伸	東海大学
	井 信行	阿蘇フォーラム		鈴木 康夫	東海大学総合教育センター、熊本教養教育センター 農村地理・地域資源学研究室
	草尾 幸子	阿蘇モーモーレディースの会		瀬井 純雄	NPO 法人阿蘇花野協会、熊本記念植物採集会
	坂口 静義	跡ヶ瀬牧野組合、跡ヶ瀬区		今江 正知	熊本記念植物採集会
	園田 盡	木落原野組合		花田 聖孝	東海大学、熊本市環境審議会、江津湖研究会
	塚本 時正	跡ヶ瀬牧野組合		佐藤 千芳	有限会社熊本植物研究所
	楢木野和幸			田原 朗敏	日本鱗翅学会、日本爬虫両棲類学会
	柳川トモエ	跡ヶ瀬牧野組合		寺崎 昭典	寺崎動植物調査研究所
	山本 清澄	的石原野管理組合		永田 瑞穂	熊本自然環境研究会、里山研究会 五家荘の会 熊本自然環境研究連合会
	力丸 裕	阿蘇フォーラム		藤井 紀行	熊本大学大学院自然科学研究科理学専攻生命科学講座、 NPO 法人阿蘇花野協会
渡辺 政則	阿蘇草原再生シール生産者の会	薬師堂 謙一	NPO 法人九州バイオマスフォーラム、独立行政法人農業・食品 産業技術総合研究機構九州沖縄農業研究センター		
地元 有識者	池辺伸一郎	阿蘇火山博物館、NPO 法人阿蘇ミュージアム	兼子 伸吾	京都大学大学院農学研究科	
	宇野 公子	花咲盛	井鷲 裕司	京都大学大学院農学研究科	
	梶原 宏之	阿蘇たにびと博物館	高橋 佳孝	独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構近畿中国四国 農業研究センター、NPO 法人緑と水の連絡会議	
	篠田 徹幸	阿蘇の自然を愛護する会	麻生 恵	東京農業大学地域環境科学部造園科学科	
	高橋 佳也	阿蘇の自然を愛護する会	宇根 豊	NPO 法人農と自然の研究所	
高村 貴生	南阿蘇村産業振興課	矢部 光保	九州大学大学院農学研究院 農業資源経済学分野		
田上 義明	南阿蘇村観光協会 うさぎの館古今亭	横川 洋	九州共立大学経済学部		
飛瀬 稔	阿蘇広域行政事務組合環境問題特別委員会	小路 敦	独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構北海道農業研究 センター		
長野 良市	社団法人日本写真家協会、社団法人日本写真協会、 協同組合日本写真家ユニオン、熊本県文化懇話会	西脇 亜也	宮崎大学農学部附属自然共生フィールド科学教育研究センター		
湯浅 陸雄	阿蘇ホタルの会、内牧花原川を守る会				
ボラン ティア	岩本 和也	財団法人阿蘇グリーンストック			
	舩尾 里子	財団法人阿蘇グリーンストック			
	舩尾 義登	財団法人阿蘇グリーンストック			
	松永 鎮	財団法人阿蘇グリーンストック			
	上野 裕治	財団法人阿蘇グリーンストック、日本造園学会、 日本樹木医会、自然環境復元協会			

(分類別・五十音順)

●阿蘇草原再生レポートは、阿蘇草原再生協議会のホームページからダウンロードできます。

阿蘇草原再生協議会に関する情報はこちらまで

<http://www.aso-sougen.com/kyougikai/>

発行：平成21年8月

阿蘇草原再生協議会

連絡先：阿蘇草原再生協議会事務局（環境省九州地方環境事務所 阿蘇自然環境事務所内）

〒869-2225 熊本県阿蘇市黒川1180 TEL:0967-34-0254 FAX:0967-34-2082